



大いちょう

平成29年 9月29日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成29年度 No. 6 048 (829) 2737

我が高砂の未来（そら）広し

校長 石山大介

敬愛門から校地内を見ると、白い校舎の南東の角にすすきが風にゆらゆらと揺れています。空の深い青色とすすきの金色の穂のコンビネーションが秋を告げています。その奥には、相撲場の大屋根、大けやき。教室からは元気な応援歌が聞こえてきます。明日は、本校147年目の「秋季大運動会」です。

昔は春にも運動会が行われていました。自然の恵みや季節ごとの収穫、健康に感謝するため、神様のいらっしゃる地元の神社の近くの広場に地域の人たちが大勢集まりました。その広場に子どもたちのための学校ができ、学校の教育と合わさって、今の運動会になりました。数十年前までは、運動会にパン食い競争などがありました。それは、子どもたちも含めた地域全体の人たちの交流を深めるレクリエーションの名残でもありました。今の高砂小では、「浦とおどり」という、地元の文化を仲立ちとして、児童、保護者、地域の方々相互の交流を図っています。

運動会という行事には、運動能力の向上や、皆で協力して一つのことを成し遂げることの大切さを学ぶだけでなく、このような成り立ち、意味があるのです。それを考えることも大切です。

いずれにしても明日の運動会の主役は児童の皆さん。優勝とか一位という結果は、大いに気になるところです。大事なものは、いっしょうけんめいに演技・競技することです。

その「いっしょうけんめい」という言葉は二とおりの漢字が充てられます。ひとつは「一所懸命」で、もう一つは「一生懸命」。

「一所懸命」の一所は、「今」や「ここで」を意味します。流行りの言葉で言えば、「今でしょ」になるのでしょうか。もう古くなってしまったかもしれません。「今やらずにいつやる。自分がやらずに誰がやる。」などという格言もあります。「今」苦しくても踏ん張る。踏ん張ってみてダメでも、もう一度二度踏ん張ればいい。

また「一生懸命」の一生とは、文字のとおり一生という意味です。ずっと長い間、諦めることなく地道に頑張り続けることの大切さを意味しています。

さて人は、自分の持っている能力の10分の1も発揮できずにいるといわれます。それは、色々なものに出会うチャレンジ精神と、苦しいと感じた時にちょっとだけ頑張る気持ちが足りないからかもしれません。ちょっと苦しくてもほんの少し頑張ってみたら、チャレンジしてみたら今とは違う自分が見つかる。新しい世界が開けます。「やったあ、やりぬいた」という自信もその一つ。新しい自分です。

今の連続が一生、一所の積み重ねが一生。一所懸命やったら、一生続けられる素敵なことに出会えると思います。一生懸命やることで、「本物」にも出会えるのです。

明日は自分の属するそれぞれの組のため学級のため、精一杯がんばってください。

強く鍛えん 時ぞ今 我が高砂の意気高し 我が高砂の未来（そら）広し

保護者の皆様、地域の皆様。明日は上天気の下で運動会ができそうです。精一杯頑張る子どもたちに、大きな声援と拍手をお願いします。

またプログラム16番の「浦とおどり」は大勢で楽しく踊りましょう。どうぞ皆さんにお声かけください。